

- 1 派遣期日 令和5年 10月 27日（金）
- 2 派遣先 学校名 埼玉県久喜市立栗橋東中学校  
所在地 埼玉県久喜市栗橋 1425  
<http://www.kuki-city.ed.jp/kurihigashi-j/>

### 3 研修内容

#### (1) 視察校における研究テーマ

「よりよい社会の創り手を育てる社会科学習」  
- 社会的な見方・考え方を働かせた深い学びの追究と、指導と評価の一体化 -

#### (2) 記念講演

テーマ：未来社会を生き抜くための資質・能力を育成する社会科教育  
- 中学校社会科と高校公民科（公共）の接続を踏まえて -

##### ①「社会的な見方・考え方」と「問い」の例

|    | 社会的な見方・考え方                                                            | 見方・考え方を働かせる問いの例                                                          |
|----|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 地理 | 社会的事象を、位置や空間の広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。 | ○それはどのように分布しているのか<br>○なぜそのように分布しているのか<br>○そこでの生活は周りの環境からどんな影響を受けているのだろうか |
| 歴史 | 社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。          | ○それは、いつ、どこで起こったのか<br>○どのような時代だったのか<br>○その出来事はなぜ起こったのか、また、どのような影響があったのか   |
| 公民 | 社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点に着目して捉え、よりよい社会に向けて、課題解決のための概念や理論と関連付けること。    | ○なぜそのような仕組みがあるのか<br>○より良い決定の仕方とはどのようなものか<br>○それは、どのような役割を果たしているのか        |

##### ②公民教育と主権者教育

###### ○公民教育について

公民的資質の育成を目指す。公民教育は、幼児期から成年期まで一貫して、社会における市民の役割や能力を育成する過程を重視している。公民教育は、小中高等学校の学校教育のみならず、家庭教育、保育教育、幼稚園教育、大学教育、社会教育と幅広く捉えられるという性格をもつ。

###### ○主権者教育に関する教育の推進のポイント

正解が一つに定まらない論争的な課題に対して、児童生徒が自分の意見を持ちつつ、異なる意見や対立する意見を整理して議論を交わしたり、他者の意見と折り合いを付けたりする中で、納得解を見いだしながら合意形成を図っていく過程が重要である。

### (3) 公開授業

【 単元名 】 第2学年社会科 地理的分野 地域の在り方

【 本時の目標 】

栗橋に住む地域住民の声から、今まで自分たちが考察・構想してきたものと比べることで、自分たちに不足していた視点をつかみ、再調査に向けた視点・事象を検討する。

【 本時の流れ 】

- ①前時までに関分たちが考へてきた「栗橋がこれからもつとずつと住みよい町になるには何が必要か」についての考へを発表する。
- ②久喜市の市民調査の結果を整理し、地域住民はどのような視点を大切にしているか話し合う。→自分たちの考へと比較する。
- ③自分たちが考察・構想した内容と市民調査の結果から考察した内容を照らし合わせ、改めて調査をするべき内容について考へる。
- ④本時の授業を振り返り、まとめをワークシートに記入する。

自分たちが住む久喜市栗橋をテーマに、市民調査の結果をもとに、より良い地域の在り方について話し合いながら考へる授業である。単元の初めの授業で、久喜市市民調査・中学生の項目を提示し、考へる視点の例を詳しく紹介していた。久喜市の過去と現在を比べたり、久喜市栗橋と似た課題を抱える自治体の取組を調べたりするなど、単元を通して地理的な見方・考へ方を働かせる数多くの工夫がされていた。

### (4) 研究協議（授業の振り返り・質疑応答・講師指導から抜粋）

- 栗橋をより良い町にするために交通・経済・人口・環境などの面から多面的に考へられていた。
- 生徒たちが発表の際、自信をもって意見を発表している。本時だけでなく単元を通して、今までの学習の積み重ねによって自信が付いている。
- RESASなどICTを用いての実践は素晴らしいが、外から見ている人間にとっては評価の仕方が今ひとつ分かりにくく感じた。ワークシートだけでなく、掛け地図などを使用して目に見えるように工夫するとさらに良かったのではないかな。
- 授業の最後に振り返りを書く際、授業終了のチャイムが鳴ってもほとんどの生徒が書く手を止めなかった。生徒が社会科を好きになる手立てを長期的に講じてきた成果だと思う。

## 4 感想

様々な情報が行き交い、考へ方が多様化・変化する現代社会において、今後ますます変化が激しくなる社会を生き抜き、主体的に未来を創り出していく資質・能力を育むことは重要である。今回の授業には、より良い未来社会の実現に向けて考へを深める工夫を数多く見ることができた。例えば、授業で配付されていた久喜市市民調査の結果である。授業で扱うには多すぎる情報量であったが、子どもたちが見やすいように整理されており、注目すべき点については印が付けられていた。表やグラフを読み取る活動が苦手な生徒にも大切なポイントがしっかりと伝わるよう工夫がされていた。また、生徒たちが積極的に意見を出し合い、自分たちに足りなかった視点を見つけようとする姿勢は印象に残った。自信をもって意見発表を行っており、その意見も外的外れな意見ではなく、地理的な視点を踏まえて自分たちが住む久喜市栗橋をより良い町にするための改善策を練っていた。今回の授業だけではなく、単元を通して社会的な見方・考へ方を養うために効果的な手立てを行ってきた成果だと感じた。

今回、様々な手立てや授業づくりにおける視点を学ぶことができた。学んだことを自分の授業に生かし、生徒たちに還元できるようにさらに教材研究に励んでいきたい。